

大柵欄のカタリスト

北京の都市更新を背景とした胡同における宿泊施設的设计提案

CATALYST OF DASHILAN

Design of Boutique Hotel in Hutong with the Background of Urban Renewal in Beijing

11923005

牛瓊

主査 篠原 聡子

教授

副査 是澤 紀子

准教授

細井 昭憲

准教授

東西文化が溶け合う北京は都市の近代化の進展が加速するにつれて、新しい建設と都市の歴史文化環境の間に矛盾と衝突が生じた。北京旧城の大柵欄のような歴史的な街区では一定の数量と規模の歴史が残り、典型的で完備された歴史的な姿を持ち、一定の都市機能と生活情景を融合させた都市区域だ。中華人民共和国建国初期の盲目的な開発によって、一部都市の歴史の特色を表現できる歴史的な町並み、胡同、牌坊などの歴史的な建築物などの有形の文化が失われたと同時に、都市の更新に伴って、伝統的な生活場面や場所精神など無形のものも失った。ここ数年歴史的な街区と旧城の更新にあたって、有形な文化に対して、重要性が見直されている。例えば街の構造やテクスチャの維持、建築の形態と色のコントロールなどにより、ある程度で歴史を感じられる都市の文化を延命させた。しかし、無形の変化、機能の変化に対しては、場所の内部の精神が交映されているとは言えない。文化の抽象的な物理空間以外に、環境を表す人文精神も必要である。

本研究及び設計は敷地とする大柵欄の特徴や文化、そして人々のここでの活動に注目し、一点から数本の線のアクティビティを触発し、線から地域全面のアクティビティを触発できるカタリストを作りたい。

Keywords: *Old City of Beijing, Historical Area, Urban Catalyst, Hotel Design, Carlo Scarpa*

北京旧城, 歴史町, 都市の触媒, 宿泊施設, カルロ・スカルパ

1. はじめに

1-1 研究背景

(1) 千編一律な都市化

中国の開発は急速に進み、このような過程の中で都市の様相は味気のないものになっている。以前は違う民族や地理的位置、風俗習慣によって異なる雰囲気や文化や建築形式が入り混じっていたが、現在、主要都市のほとんどが近代的な外観を呈し、高層ビル群となっている。

異なる地域の伝統文化は生活の経験の中で築かれ、長い時間をかけて醸成されるが、現代科学技術の進歩が早く、短期間で近代化がこのような味気のない都市を生み出していると考えられる。それに伴い、都市の特徴や文化の多様性が失われている。

(2) 「不謹慎な都市計画」から「北京胡同の魅力の再意識」

現在までの不謹慎な都市計画と文化保護意識の欠如が、北京の旧城の景観を損ね、旧城の至るところに歴史街とは不調和な大きなボリュームの建築が散在している。

90年代から研究者たちが「全体保護」「有機更新」などの理論を提出し、旧城でいくつかの設計実践を行った。

当時の人口増加でもたらした過密な住宅、それに伴う、住宅環境の質の悪さなどの基本的な問題を引き起こす不合理な増築を取り壊し、町並みの立面を表面的に改善するなどの対応がされたが、ボリュームが大きい建物は当分の間放置するしかない。

一方で現在胡同には低い家屋からなった秩序や伝統的雰囲気があるので、近代的な高層ビルの風景に慣れた人々は、このような心地良いサイズ感の貴重さを意識してきた。北京胡同の魅力もここ数年で改めて注目されている。

1-2 研究目的

(1) 北京旧城の価値は街の構造と建築形式の全体性に現れている。このように特殊な環境によって定義された空間の中で、地域性と文化性に合った新建築をどうやって探索していくのが本論の主な研究目的である。新建築は歴史建築様式をそのままに復原するのではなく、現代のライフスタイルと審美に適應する前提で、場所の歴史と文化に應えるべきである。

(2) 現在、北京の胡同にはいろんな新しい建築実践があるが、その中で数多くのは設計コンセプトと新しい美意識を追求していると同時に、胡同の全体性という価値を尊重していない。胡同で空間

問題の軽重緩急から見ると、ボリュームが大きい、外観に歴史町の雰囲気と一致しない、しかも設計手法と建築技術のこだわりがない建物はまず解決されるべきである。

(3)新しい建築の設計による人の行為で人気を失った地域の活力を呼び起こす。

宿泊施設という建築の機能は地元に基づき、外部からの利用者にとってこの場所の景観や文化の精神を伝える役割があるはずだと思う。また、旅館を中心とした施設に、地域文化を展示するスペースや異なる背景を持つ人々の交流ができる場所を加えることで、地域全体の活性化や伝統文化の魅力を高めていくことができる。このため、本制作は宿泊施設の設計によって胡同でのさまざまな人々の行為に対応する空間を計画する。

1-3 研究方法

まず、調査と分析を通じて、北京旧城と大柵欄地区の空間的な課題を把握し、設計で解決を試みる。また、同じく歴史的な都市のベネツィアで建築を実践していた建築家カルロ・スカルパを分析し、彼の設計手法を抽出し利用する。最終の設計は、実際の問題を解決した上で、歴史町のテクスチャと伝統建築空間の形態を尊重し、カルロ・スカルパの設計手法と再設計した空間要素を融合させる。

2. 大柵欄と北京旧城

2-1 大柵欄の位置

大柵欄地区は北京の中心ランドマークである天安門の南西側に位置し、南中軸線に近い。天安門に最も近く、最も保存状態がよく、規模が最大の歴史文化街の一つである。



図1 大柵欄の位置 (中心軸との関係)

出典：百度マップより自絵

2-2 北京旧城

(1) 北京旧城の概要

北京城の建築の始まりは「周礼考工記」での「周王城」の影響を受け、明朝に形成された。当時の都市構造の骨格が今でも北京の街にはっきりと残っている。四合院を最小のユニットとして、廷、宮、坊、城のような異なった規模の建築を構成することができる。

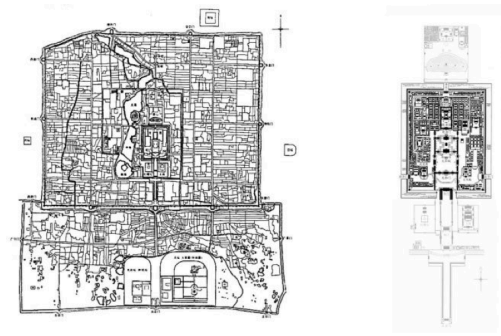


図2 北京旧城と中心宮殿

出典：gooood.cn (詳細は参考文献10)

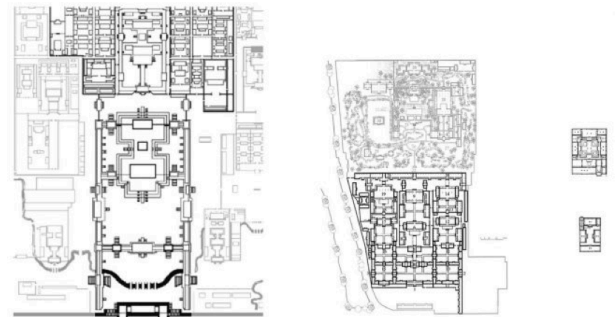


図3 宮殿、ロイヤル住宅、民家住宅

出典：gooood.cn (詳細は参考文献10)

旧城には文化財はあるが、絶対数量から見れば多くはない。旧城の中で新しい建物の数が増加し、価値がある古い家屋の数を超えた。この数量の変化が旧城の風貌に変化を引き起こした。

1949年後(解放後)、旧城の改修は敷地の空いているところに建物を立てていく場当たりの方法で行われた。質の保たれている四合院のいくつかは政府機関に占有され、それ以外は都市の更新の中で壊され、大きなボリュームの建物に替えられた。

優先的な改修がなされず、長期にわたって修理を怠った四合院は衰退し続け「危旧建物」(古くて危険な建物)となった。

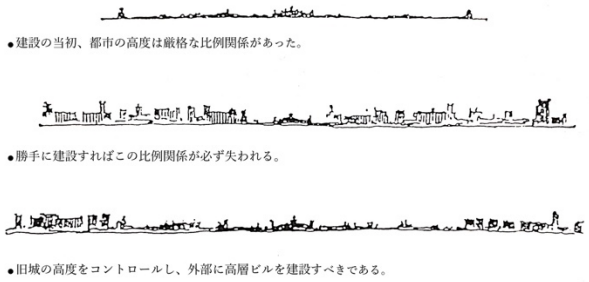
(2) 旧城の「全体保護」

呉良鏞は「北京旧城と菊兒胡同」で「全体保護」という概念が提出された。旧城保護の重点の一つは、歴史が残した文化財を保護することである。しかし建国後数回の都市発展の誤った実践を経て、王府の園林や宅邸と比較的質が良い四合院の民家はほんの一部しか残っていない。呉氏が言うように、北京旧城の価値は、このわずかな歴史的価値の四合院建築ではなく、膨大な規模の全体性である。北京旧城は歴史上、さまざまな時代に凝縮された最大の古都であり、その構図は今に至るまで明確に目にする事ができ、厳格で完全な都市設計の下に形成された全体的な秩序は、他の都市とは異なる顕著な特色である。

旧城に対する保護の態度は博物館式の不働の保護であるべきではなくて、本当に価値のある歴史的建築はもちろん、大割の古い家屋は都市の更新の過程の中で現代の生活に迎合し、全体的な秩序の保護に呼応するべきだと、呉氏は述べている。

具体的には次のような点である：

- ①「水平式都市」(horizontal city) の特徴を維持する



- 建設の当初、都市の高度は厳格な比例関係があった。
- 勝手に建設すればこの比例関係が必ず失われる。
- 旧城の高度をコントロールし、外部に高層ビルを建設すべきである。

図4 異なるスカイラインの形態による影響
出典：呉良鏞、「北京市計画論議」、建築師 1979

- ②南北中軸線の保護と発展
- ③既存の基盤式の路地システムを維持する

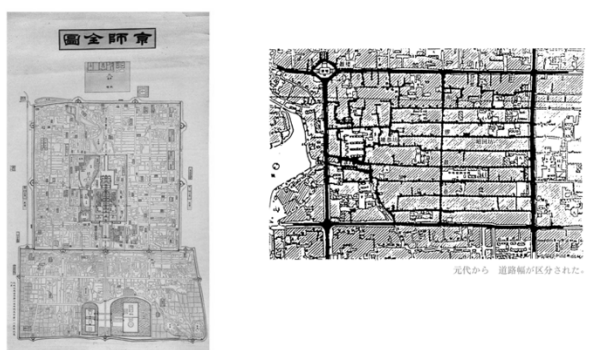


図5 基盤式の道路網と局所拡大図
出典：呉良鏞、「北京旧城と菊兒胡同」、1994

- ④四合院の建築を受け継ぎ発展させる
- ⑤都市の色を調和して統一される

2-3 大柵欄の特徴

大柵欄は明清北京城の最も重要な市井の商業中心である。北京の胡同の多くは、元大都の成立とともに形成されていった都市の脈絡である。大柵欄地区は胡同が多く、そのうちの66%が明時代の外城建設後に発展したものだ。元大都が建設された以降、金中都の一部の住民が転入し、新旧城の住民の往来が絶えず、新旧城の間に自然にいくつかの斜路が出来て、またこれらの斜路に沿って建物が建てられ、徐々に斜街を形成していた。この区間は徐々に繁華な商業地区を形成し、そして斜街と正陽門外大街(大柵欄地区の東部)にまた完全な商業地区を計画された。嘉靖三十二年(1553年)に城を建設してから、1930年代まで、ここはずっと北京城の最も繁華な地区とされていた。これらの斜街は二つの皇都を結び、繁華街の起源でもあるため、明代から「龍脈」と呼ばれていた。

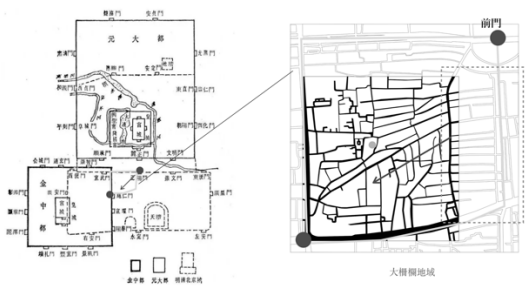


図6 元大都と金中都の位置関係
出典：左・(詳細は参考文献11)
右・自絵

清朝が北京に都を定めた後、内城は八旗¹の駐屯地となり、内城に住んでいた漢人や他民族を外城や他の場所に強制的に移住させ、強制移住させられた人々は大柵欄地区に約25%の胡同を新たに建設した。その後、民国の間、経済の発展と人口の増加に伴って、ここでは徐々に7%の胡同が増えた。

大柵欄地区は北京の歴史が最も長く続き、その都市のテクスチャを保存しており、これらの本来の味のある古い街や路地は北京市井の生活遺迹となっている。

2-4 大柵欄の現状

2-4-1 多様な建築様式

大柵欄地区は600年に及ぶ発展の中で、ずっと老北京の最も繁華した場所である。ここはかつて商業が発達して、店が密集して、炉房²、銭荘³と銀号³の集結地である。士文化の代表格である琉璃廠文化街がある、様々な宗教寺院が多い、新聞業と出版業が盛んで、会館が集結して、多くの有名人の旧居を遺した。また娯楽場所の集中の地で、有名な梨園の郷で、またかつての八大胡同の位置である。

このように多くの文化や要素と一緒に生まれたのは地元の建築である。明、清、民国などの異なる時代の建築様式がこちらに集めた。この地区で発生した一連の興亡と哀歎離合の物語を目撃しており、多くの歴史的建造物は今もよく保存され、当時の北京の生活史を記録するものとなっている。これは、設計の面白い要素をたくさん集めることができ、設計が時代とともに変化する可能性を秘めている。

2-4-2 旅館業界の混乱な現状

前述のようにかつての繁華な商業、試験文化、会館文化、梨園文化は大柵欄に明清から発展して、大小の異なる旅館がたくさんあった。今でも多くの旅館があるが、彼らの現状や町の発展という観点から新しい問題や挑戦がでてきた。

(1) 宿泊施設の分布とタイプ

①伝統風建築(四合院、民国)：伝統的な建築様式と外観が完全に保存されている。内外の建築スタイルは調和がとれていて、室内のデコレーションは現代に偏っている場合もある

②伝統風設計建築：伝統的な構造や様式を基本的に保留した上で空間と動線を再組織し、現代的な材料技術を加えた。街のスタイルにもマッチしている。

③伝統要素がある建築：現代建築の構造に基づいて伝統的な色彩と要素で装飾されている。外観から見て、街の風景と一致しているが、内部の装飾には不確実性がある。歴史街区の改造の切迫性とし

ては、これらは一時的に保留できるものだ。

④普通の建築: 体量や外観から伝統街とは明らかに違和感のある建物だ。

(2) 経営形式と外観の混乱

安価なチェーンホテルのブランドが利益を重視し、質の悪い建物を借りて、複数の建物を建設している。歴史町の文化意識があって、簡単に改造したチェーンホテルもあるが、表面的な仕事である。

2-4-3 雑院化の現象は広範である

大雑院是北京旧城では普遍的な問題で、勝手に増築することによって形成される多家庭が一つ院落で混住のことである。旧城の建設の初めに、通常は一家族が院落あるいはいくつかの院落からなる大きな院落に住んでいた設計だが、これは今の大雑院の状態となり、使用空間と生活の質の低下をもたらす原因となっている。

大雑院の状況は大柵欄地区で更に一般的で、ここはもと旧城の外城で、民家を主として、封建階級の多様さも四合院の形式を更に自由に変化させて、経済能力の制限も建築材料を多様にさせている。

近代の雑院の形成には、いくつかの理由がある。地震後の防振棚の設置、そして70年代から、人口増加に伴い住宅が足りなくなり、液化ガスを使って台所を別に建てなければならぬため、住民は庭に小屋を建てる傾向があった。明清期民国期商業の発展がもたらした人口の増加現象で、そして封建階級の壊滅は、一部の貴族たちを自分の庭を切り離すことを余儀なくさせた。近代になって大柵欄地区の庶民住宅の質が大きく低下し、低所得者の居住地となり、雑院化はさらに顕著である。

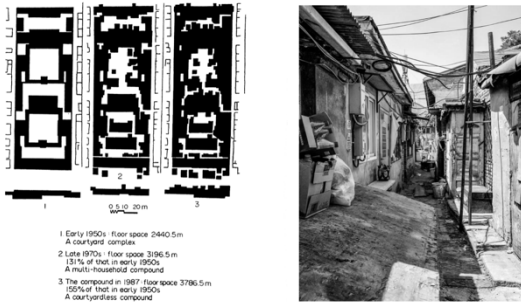


図7 雑院の変化図と内部例

出典：左・呉良鏞、「北京旧城と菊兒胡同」、1994

右・(詳細は参考文献12)

しかし「大雑院」を悪い意味ではなく、むしろ歴史的な時代の変化に対する庶民の空間利用の知恵だと思う。当時の人々が利便性を追求する一方で、生活環境の質に配慮していなかったからだ。それが今、設計で改善できる場所である。生活空間の質を高めながら、空間を有効に活用することが必要である。

3. 敷地の現状

3-1 敷地の位置

敷地は核桃胡同を選び、ここは3つの主要な観光ルート(楊梅竹斜街、大柵欄西街、琉璃廠東街)が集まる場所である。直接楊梅竹斜街と接続して、南東に短い住宅街核桃斜街があるため大柵欄西街と不明確に繋がっている。北に不規則形状の交差点があるため間接的に琉璃廠東街に接続する。主要道路に囲まれた地区の中心部で、東は観光商業地区、西は伝統文化地区、南は胡同生活地区である。

総合的に見ると、さまざまな目的の人がここに通る。

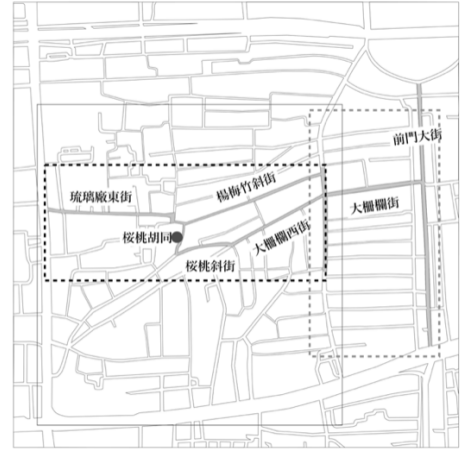


図8 核桃胡同と三つの観光ルートの関係

3-1-1 連結している道路の特徴

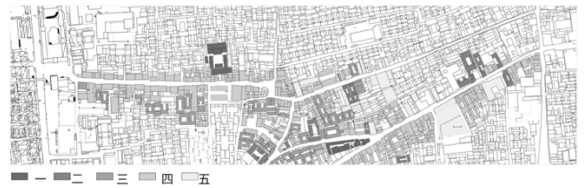
大柵欄西街: 大柵欄商店街の西側の延長線上には、商業が繁栄し、居住家が混在している。大通り側の建物や四合院の大部分を観光店やレストランや旅館に改造したり、新築したりしている。

琉璃廠東街: 起源は清代で、当時は各地から科挙試験を受ける人々がこの一帯に集中して住んでいたため、書物や筆墨紙硯を売る店が多く、文化的な雰囲気が濃い。今の建物は伝統建築を模倣したもので、本当の歴史的価値はないが、伝統的な建築空間と伝統的な機能をよく再現している。

楊梅竹斜街: 大柵欄地域で重要な商業と居住が混在している街だ。新しい商業の形式は”北京設計週”をきっかけに展開された。大柵欄西街のような企画された商業町と違って、楊梅竹斜街の商業は自発的に形成された。現代的でセンスのある店が集まっているので、若者に人気がある。

3-1-2 設計範囲の確定

敷地調査により、観光ルートを構成する胡同の特徴や要素を捉えた。主に道の両側の建物の外観を分析した。分析によって、改造や解体が可能な建物かを特定することができる。



一類 文化財



護国観音寺

二類 歴史的価値の高い建物



民国と明清時代

三類 歴史情報が残る伝統建築



四類 伝統的な建築と調和した建築



五類 伝統的な建築と不調和な建築



図 11 街に沿った建物の風貌の分類

3-1-3 敷地の現状



図 12 敷地の現状写真

現在の立面の状況と庭の分割はこのような状況である。立面は混乱な現代要素が溢れている一方で、大きなボリュームの建物が一つあって、建築の質が悪い。A 庭で伝統要素がある建物が一つあって、取り壊すよりレノベーションしたい。他の建物は取り壊し、新しく作ろうと考える。

4. カルロ・スカルパの作品から抽出した設計手法

Carlo Scarpa はベネチアで様式的な建築の再生を多く手がけており、彼の作品と手法は歴史や都市との連続性の中で建築を更新していく上で重要なヒントを与えてくれる。

彼の作品を「都市との関係」「歴史と出会った建築言語」「色とマテリアルの扱い」という三つの観点から分析した。

(1) 都市との関係は主に立面の設計と建物内部から外へ導く視線に反映されている。

	1) ファサード	2) 外へ導く視線: 内部の動線
オリベティ・ショールーム Olivetti Showroom	角を完全に開けて、床の意を設けて、内外共有のコーナー展示室を形成している。通路側の外壁にはコンクリートと石材が使われている。	階段で到着した二つの構はつながっており、それぞれの路線が形成されているが、視界と外へ見る体験が豊かになった。構を歩いている間、窓の外が都立入り口の彫り池を足元を止めて鑑賞することができる。
ヴェローナの銀行 Banca Popolare di Verona	度は自分の設計表現の要求があるが、例えば、立面はできるだけ非対称を追求するとか。しかし、周りの建物との調和のために、伝統的なイタリア建築の三段式を保留している。下の階は石壁である。 立面の折れ線は狭い路地の方向を示し、都市空間に対する応答である。	わざと垂直線を立面に近づけ、室内に光を導入しながら、外部に視線を向ける。

図 13 都市との関係

出典：(詳細は参考文献 13)

(2) 都市の歴史を尊重する建築言語を四つに整理した。

① 新旧建築要素の並列: テクスチャの継ぎ合わせと二つの立面の並置は彼がよく使った手法である。

1. テクスチャの継ぎ合わせ



Image © Sabatino architecture&landscape blog
カステルヴェッキオ美術館 Museo Castelvecchio

Image © Gianni
パルッツォ・アトリス改修 Palazzo Abatellis

Image © cat_grid
伝統的なイタリアの建築の現状と修復手法の影響を受けている。現在の建築設計にも広く使われている。

2. 二つ立面の並置

Image © CulturalHeritageOnline
パルッツォ・ホール (1935)



Image © p56p56p
Image © cat_grid
ヴェローナの銀行

図 14 新旧建築要素の並列

出典：(詳細は参考文献 14)

② 古い部材の移植: 建築部材を本来の用途とは違う方法で使用することで新たな機能を与え、新しい感覚で歴史を体験する。

③ 中断と隙間の策略: 隣の建物と接するたびに、中断と隙間を使って一連の空間介入を形成している。

歴史的記念物の移植

Image © archinest
ヴェネツィア大学建築学院のエントランス
Entrance to the Architectural faculty of Venice university



部材の元機能を捨てて、新しい感覚で歴史を体験する。 Image © archinest

中断と隙間の策略: 隣の建物と接するたび

Image © archinest
ヴェローナの銀行 Banca Popolare di Verona



Image © Thom Mayne
左の折れた、右の接するところに後退のプラットフォームがある。

Image © Thom Mayne
カステルヴェッキオ美術館 Museo Castelvecchio



Image © Thom Mayne
ローマ時代の城壁は新たな発見として、この空間に新たな意味を与えた。ナポレオン時代の部屋を残して、14世紀の人物の像に移し、隣の中庭タワーに加えて、全体の空間はローマ、ゴシック、ルネサンスとナポレオンの時代を融合した。

図 15 古い部材の移植と中断と隙間の策略

出典：(詳細は参考文献 15)

④ 架空の構造: 建物の一部の構造を露出させるか、あるいは余白にして仮想的な連続を生じさせ、連想を与える。

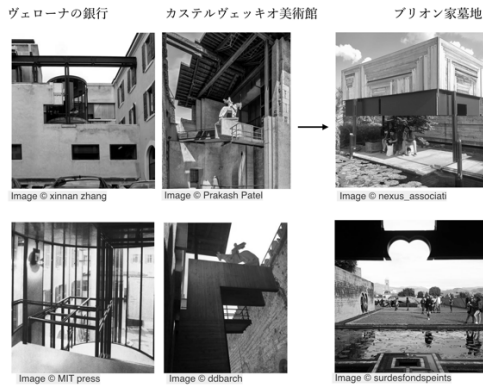


図 16 架空の構造

出典：(詳細は参考文献 16)

(3) 色彩とマテリアルは彼が都市の雰囲気尊重する重要な要素である。Carlo Scarpa の色とマテリアルの扱いはイタリアの伝統を現代に継承すること、フランク・ロイド・ライトからのインスピレーション、そして自分の好きな芸術スタイルの追求から影響を受けていると思われる。

- 土地の色調 • ガラス窓の扱い



図 17 天窓の扱い

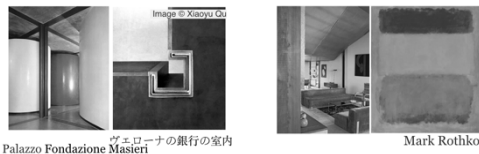


図 18 芸術スタイルの応用

出典：(詳細は参考文献 17)

5. 設計提案

5-1 設計のコンセプト

大柵欄地域は北京中軸線の西側にあり、内部の町の構造は旧城の他の地域とは違ったテクスチャができています。ある学者によると、大柵欄地域の斜街は元大都と西南部の元金中都の間で人と貨物が往来したことで形成された。現在の大柵欄の東から西への観光ルートも新しい道の方向に形成されると考え、この連続性を強めたい。

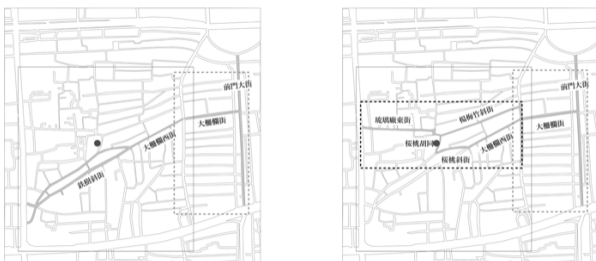


図 18 観光の行為は力の作用方向を変えた

楊梅竹斜街(東)は若い人の中で人気が高い一方で、中国琉璃廠東街(西)は人気が落ちている。多分琉璃廠東街の主な中国の伝統的な書画芸術と骨董文化は若者に容易に触れることができなく、ここは年配の人がよく知っているところであり、そのため、中国の伝統的な文化を代表するコンテンツは若者の間で魅力を失っている。三つの道は、それぞれに向いている人たちがいて、その人たちの行動は共通していないことが多い。東西の胡同を連結し、地域の触媒をデザインする。

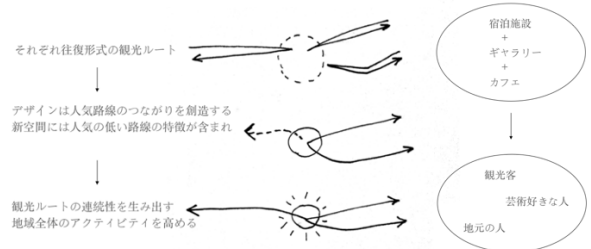


図 19 触媒コンセプト図

この触媒の主機能とする宿泊施設は外来者を歴史町の雰囲気を体験するため、地域の全体性を示す。カフェという機能は地元や外来者の交流を促進するため、そして東の二つの観光ルート楊梅竹斜街と大柵欄西街を直接つなぐことができる。琉璃廠東街が代表する中国伝統書画芸術の雰囲気を高めるため、ギャラリーを設けて、このような琉璃廠東街の代表的な要素を注入する方法で間接的な繋がりを作成する。最後の3つの路線は密接につながって、地域全体のアクティビティを高める。

5-2 ダイアグラム

5-2-1 機能の区分

胡同の建物は四合院と呼ばれているが、周囲に四つ建物単体で囲った庭園があるほか、斜街という空間配置による限られた土地に3つの建物単体または2つの建物単体で囲った庭園もあり、商店街の両側にも建物単体でもある。四合院の基本単位は「合院」と見ることができ、設計の第一歩は、敷地の合院を歴史的な街並みに復元することであり、その上で三点の設計を行った。

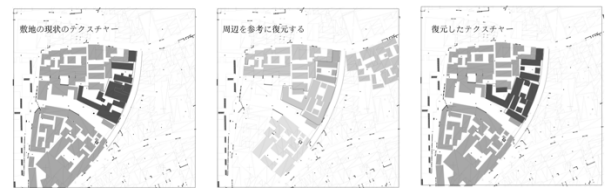


図 20 テクスチャーの復元の過程

(1) 立面の境界:町の景観と合わせるため、歴史町の立面割合や材料を参考して設計する。

(2) 庭の組み合わせ:町の構造や旧城全体性を保証しながら機能に応じるため、大雑院のような空間扱いの智慧を使って、四合院のテクスチャーを保証し、かつ機能より合院を分割し直す。

(3) 立体的な動線:人の空間体験をさらに面白くなるため、普通に一層だけの活動動線を、さらに立体的に設計する。

5-2-2 カルロ・スカルバの設計手法の応用

①都市のファサードの比率を尊重し、都市の景観を調和させる。

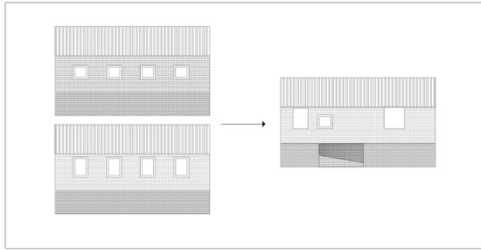


図 21 現在の立面より進化

②都市環境への視線を設け、視線を通じて歴史町の環境を強調し、基地と都市環境の連携を強化する。

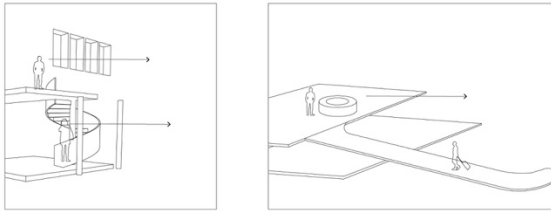


図 22 町に視線を誘導する

③部分的に構造が露出した空間は、屋外空間を作り出すと同時に、建築全体を連想させる。

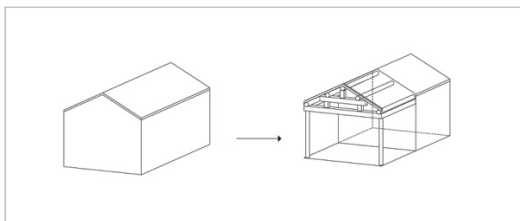


図 23 構造の一部を露出する

④二層のファサードを活用することで、歴史町の景観と調和すると同時に、現代的なライフスタイルを満たす空間を作り出す。

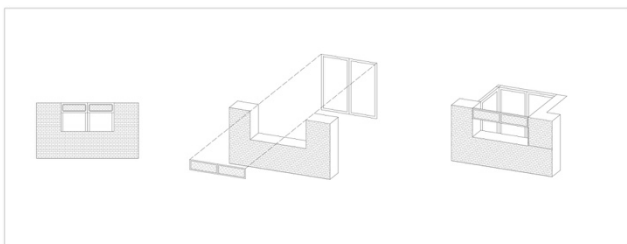


図 24 ファサードの分解

⑤歴史的な要素のある建築を再利用し、現存する小さな建築単体を茶室に改造し、大柵欄地区に集めた戸袋や窓などを組み分けて再利用する。

5-2-3 町の景観に応じる形の扱い

①スロープと廊下の結合

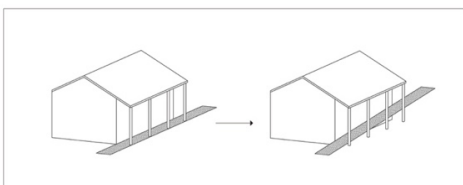


図 25 スロープと廊下の結合

②通路が建物を横切る

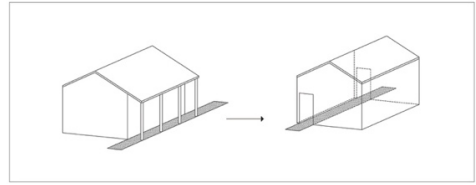


図 26 建物の中を通る通路

③建物内の半屋外空間を作る

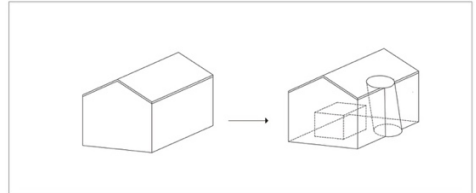


図 27 建物で空間を入れる

④構造を漏出させ、建物単体を屋内と屋外の空間に分割する

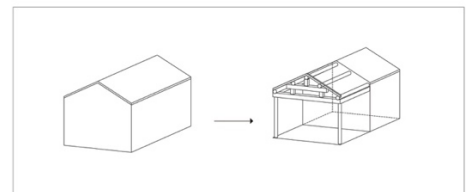


図 28 構造を漏出させる

⑤隣接する2つの建物のつながりを生み出す

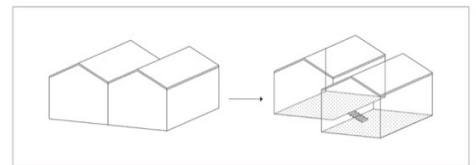


図 29 くっつく建築体の関係

⑥建物全体を上げる

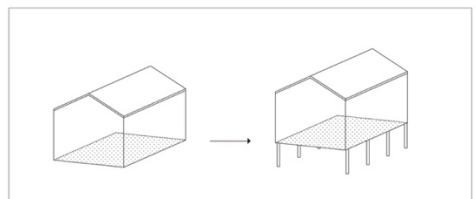


図 30 建物全体を上げる

5-2-4 立面図と平面図の提案

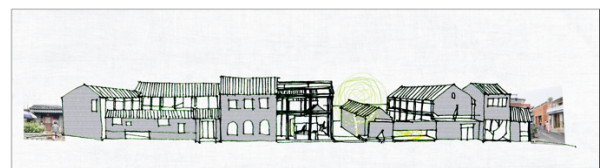


図 31 立面の想定図



図 32 一階平面図

参考文献

- 1) 「北京旧城と菊兒胡同」, 吳良鏞, 1994
- 2) 「process and Theme in the work of Carlo Scarpa」 Guiseppe Zamboni, 1983
- 3) 「Constructing Tale」, Sam Ridgway Interviews Marco Frascari, 2006
- 4) 「断片後の全体—カルロ・スカルパのヴェローナのカステルヴェッキオ美術館」, 李秀
- 5) 「断片建築の時間—カルロ・スカルパ建築設計思想研究シリーズ」, 李秀
- 6) 「断片建築の言葉—カルロ・スカルパ建築設計思想研究シリーズ」, 李秀
- 7) 「カルロ・スカルパ:都市の設計方法」, 張婷
- 8) 「北京大柵欄地区で小規模な整備と改造初探」, 高一涵, 2004
- 9) 「北京伝統院空間非居住機能の現代化モデル研究」, 陶春春, 2004
- 10) <https://www.goood.cn/miniature-beijing-the-conversion-of-no-28-dayuan-hu-tong-china-by-atelier-li-xinggang.htm>, 2018年8月8日投稿
- 11) <http://wap.archcollege.com/archcollege/2017/10/37651.html>, 2017年10月24日投稿
- 12) https://www.sohu.com/a/379817132_586113, 2020年3月13日投稿
- 13) 上行左から 1-6: <https://www.yellowtrace.com.au/carlo-scarpa-olivetti-showroom-venice/> 2016年3月18日投稿; 「カルロ・スカルパ:都市の設計方法」, 張婷
下行左から 1-5: 「カルロ・スカルパ:都市の設計方法」, 張婷; <https://www.youtube.com/watch?v=Mb1O2mk5hRY> よりスクリーンショット
- 14) 上行左から 1-4: <https://www.flickr.com/photos/bradydorman/4430611300/> 2010年3月9日投稿; <http://architecturexxxlandscape.blogspot.com> 2014年12月25日投稿; https://www.instagram.com/p/B_Sc3xDFdcE/?igshid=1q35xxhz8xets 2020年4月23日投稿; <http://blog.paulinaareklin.net/2016/06/venice-venezia-italia-vol2.html> 2016年6月24日投稿;
下行左から 1-4: https://www.culturalheritageonline.com/location-2334_Aula-Mario-Baratto,-Ca'-Foscari-University.php; <https://www.instagram.com/p/BK8BB-hB-7x/?igshid=xqofmoedlz9u> 2016年9月29日投稿; <https://www.instagram.com/p/BTzcx3CA1EH/?igshid=7ffb7tjqqot9> 2017年5月8日投稿

- 15) 上行左から 1-3: <https://www.archiweb.cz/en/b/vstup-do-benatske-fakulty-architektury-ingresso-universit-iauv>
下行左から 1-4: <https://www.instagram.com/p/4wqi3WERYL/?igshid=1emzuek8n3pub> 2015年7月6日投稿; <https://www.instagram.com/p/B7O3n18oAKU/?igshid=1xw4pj6hsmbv6> 2020年1月13日投稿; http://www.flickr.com/photos/thom_mckenzie/2543880361/in/album-72157610839150932/ 2008年6月1日投稿; <http://www.architecture.eu/Architekten/Italien/Scarpa%20Carlo/Carlo%20Scarpa%20-%20Castelvecchio%20Museum%20Verona%201.html>
- 16) 上行左から 1-3: 「カルロ・スカルパ・芸術と伝統を融合させた空間モンタージュ」, 張昕楠, 2007年6月; <https://www.conceptualfinearts.com/cfa/2020/03/19/museum-displays-is-now-the-time-to-rethink-them/>; <https://www.instagram.com/p/Byx082FJpp9/?igshid=13sfyirur164> 2019年6月17日投稿
下行左から 1-3: 「process and Theme in the work of Carlo Scarpa」 Guiseppe Zamboni, 1983; <https://www.instagram.com/p/CAYDifNJoKr/?igshid=3g95hqr6it3h> 2020年5月20日投稿; Instagram user @surdesfondspeints
- 17) 上行左から 1-3: <https://gnixus.wordpress.com/2012/07/18/carlo-scarpa-s-addition-to-the-museo-canova-july-18th-2012/> 2012年7月18日投稿; <https://archive.curbed.com/2019/7/9/20686747/frank-lloyd-wright-ho-use-for-sale-auction-sondern-adler-kansas-city> 2019年7月9日投稿; <https://harleenmcleaninteriors.com/blogs/home-office/organic-design-2020年9月18日投稿>
下行左から 1-4: <https://www.instagram.com/p/B3v4JoXIB-2/?igshid=6ajhe2oyet7d> 2019年10月18日投稿; ©屈小羽, 「カルロ・スカルパ・芸術と伝統を融合させた空間モンタージュ」, 張昕楠, 2007年6月; <http://www.ilariaorsini.com/carlo-scarpa-tabarelli/>; © Mark Rothko, 「orange, red, yellow」, 1956

注

- 注 1) 八旗: 清代に支配階層である満洲人が所属した社会組織・軍事組織のことである。また、この制度を指して八旗制と呼ぶ。八旗は旗と呼ばれる社会・軍事集団からなり、すべての満洲人は8個の旗のいずれかに配属された。後にはモンゴル人や漢人によって編成された八旗も創設される。
- 注 2) 炉房: 金属などを鑄造する場所である。
- 注 3) 錢莊、銀号: 中国における旧式の金融機関。